

篠岡地区の学校再編に関する保護者等との意見交換会 で頂いた主な質問や意見等（要旨）

第Ⅰ部（8/24（日）10時～ 於：東部市民センター講堂）

■第Ⅰ期学校再編について

○校歌は令和9年度以降に作成方法を検討するという説明であったが、再編直後はどうするのか。

再編後、子どもたちが自分たちの力で校歌を作り上げていく、その過程を通して、連帯感や学校への愛着を育めるような機会を提供していきたいと考えている。
再編直後は校歌はなしで運用することとなる。

○篠岡小の児童クラブはどうなるのか。

R8年度までは篠岡小学校で運営し、R9年度から光ヶ丘小学校の場所で運営することとなる。

○学校が遠くなると児童クラブに子どもを迎えに行く時間が遅くなる。時間が遅くなると追加料金を支払う必要があるが、再編後は配慮していただけるのか。

担当部署に伝えさせていただく。

○出来る限り、地域の取組を残してほしい。

継承すべき文化は大切にし、これまで培ってこられた取組や地域との絆を活かしていきたい。

○令和9年の再編は早すぎる。本当に準備が間に合うのか。

児童生徒数の減少の状況を鑑みると学校再編に猶予はなく、可能な限りは早く再編を行う必要がある。

令和9年度に間に合うように丁寧に学校と連携を取りながら準備を進めていく。

○これから子どもの人数が減っていくとわかっている中で、なぜ第2期の時期が未定なのか。新しい学校を建てるのに6年以上かかるのであれば、今から検討するべきではないか。

現段階で、小学校1校・中学校1校にまとめるには児童生徒数が多く、適正規模を上回ってしまうことが想定されることから、現段階では段階的にできるだけ早く再編をしていくことが望ましいと考えている。

○もし人口が増えたら第2期の再編はしないのか。桃ヶ丘と光ヶ丘の場所で校舎を建替えることも考えられるのか。

児童生徒数の推計については、新たな学校づくり推進計画の際に行った推計よりも、実際の児童生徒数が下振れをしている状況から、今後も減少が続いていくものと見込んでいるため、将来を見据えて準備をしていく。

○新しい校舎を建てる際は、魅力的な学校にしていきたい。

魅力的な教育環境の学校を地域に作ることで、地域の活性化につなげていきたい。

■スクールバスについて

○エリアの境界の地域は、スクールバスに乗れる子と乗れない子で分かれてしまう。

エリアを設定する以上、どうしてもバスに乗れる子と乗れない子で分かれてしまうのは避けられないことである。

徒歩の通学団の人数が極端に少なくなったりする場合は、隣接の通学団への編入を検討する。その上で、解消が難しいと認められる場合には個別に対応を検討する。

○「個別の対応が可能」と言うのは、保護者から申し出がないと対応いただけないのか。

通学団の編成をする中で状況を確認していく。子どもたちが安全に通学できるよう対応していく。

○仮にスクールバスを希望しなかった場合、周りに徒歩で通学する子がいなかったら、その子は一人で通学することになると思うが、対応方法はあるか。

その際は、できるだけ隣接の通学団への編入をお願いしたいと考えている。

○スクールバスに乗ることによって、子どもの運動不足が心配になる。バスの降車場所は学校から離れた場所でもいいと思っている。

子どもたちの安全を第一に考え、バスの降車場所を決めていく。

学校教育の中だけで運動不足を解消することは難しいため、各家庭においても日ごろの生活の中で意識していただきたい。

○子どもがきちんとバスに乗れたか確認できるか。

ICTを活用した登下校確認ツールも含め検討する。

乗り遅れた場合は、再度集合場所まで戻ることは難しいため、保護者による送迎などによりご対応いただきたい。

また、児童生徒の安全確保や乗り遅れの防止のため、特に低学年児童については保護者等による付き添いや見守りのご協力をお願いしたい。

○バス停は児童の増減により、毎年変更になる可能性があるとのことだったが、例えば、今まであったバス停が無くなり、これまでそのバス停を利用していた子が別のバス停で降ろされる、ということもあり得るのか。

安全に通学できることを第一に考えた上で、総合的に判断していくこととなる。